

## 第10回 赤川水系河川整備学識者懇談会 議事概要

令和元年11月11日（月） 13:30～15:45  
庄内産業振興センター西館 3階 マリカ市民ホール

○委員からの質問・意見

◆事務局からの回答

### (1) 赤川総合水系環境整備事業の事業再評価について

○先日の台風19号の被害はひどい状況だった。毎日テレビ報道を見ていたが、山形県という言葉が一言も出てこなかった。これは本委員会の委員として非常にうれしかった。赤川の整備が進んだことだと理解している。命ということが一番大事だと感じた。その点で赤川水系は整備されていると理解した。

今日説明のあった整備については、三川町かわまちづくりの整備が進んでおり、これから鶴岡市赤川かわまちづくりも整備が進むと伺ったので、避難とか万が一のことを視野に入れたイベントがこれから必要ではないかと思った。具体的にどのように避難をするという説明を入れながら楽しんでいただく取組みが出来ないかと感じた。

魚道は素晴らしく改善されたと思うが、鶴岡市はアオサギの生息地と聞いていたが、ハリエンジュなどの樹木を伐採してしまい、その後アオサギはどうしたかという点が心配になった。全体として整備が進んでいてよろしいと感じた。

○台風19号の話があったが、これから益々災害が多くなるのではないかと、身をもって感じている。災害が多くなると、国交省、県、鶴岡市とがっちり取り組んでいただき、最先端の技術で住民の安心安全を守ってもらいたいと感じている。台風19号の災害対応にあたっては酒田河川国道事務所からも支援として職員が派遣されていると聞いている。赤川水系の整備計画が順調にいったことは大変心強い。今後とも推進して欲しい。

○全体を通して事業は円滑にいつていると思っている。ただ、災害の備えというのは常々考えていないといけないと感じる。最近起きている気象現象の異常さというのは地球レベルの大きなところで考えなければいけない。今の整備計画でうまくいつているからといって、安心してはいけないということを考えておかなければいけない。今回、町や市が整備する施設は災害があった際に真っ先に被害を受ける場所だと思うので、整備や維持管理をどうするかということも考えておく必要がある。

河川整備にあたって様々な地方団体が協力してくれているものについて、何団体だとかどういう団体かというところが、もう少し見えると、計画がうまくいつていると言うことが分かるのではないかと感じる。具体的な数値等で示すと分かりやすい。

○災害があるたびに、川が危ない場所だという意識が先に来て、危ない場所だということで益々、川に行かなくなってしまう。避難しない方がいるという話もあったが、川の近くに住んでいても自分と関係のない、関心の無い場所になってしまっているのでは無いか。

そのような中で、今回の総合水系環境整備事業は、もう一度川に関心を持つ上で重要な事業となってくるのではないかと。もっと日常的に関心を持ち、川を訪れるようになると平常時はどういう状態か、災害が起こる手前はどういう状態かということも分かるようになるのではないかと。

公園等、場所の整備は進むが、一番肝心な川の中の整備・改善という点では難しい部分もあり、まだまだ課題が多いと感じている。日常的に川に触れ、関心を持ってもらうという意味でも、自然再生事業は重要な意味を持っていたと感じる。赤川の整備を見ていると非常に広域な、長い流路を対象として取り組まれていて、その成果が、市民の広い関心と日常的に市民が川を訪れる機会が増えることにつながると良いと感じている。

維持管理に関しては、どの維持管理をするのかというところを、行政が受け持つ部分と行政が受け持つのが難しい部分とを分かりやすく伝えてもらえると、ありがたい。これはすべて事業計画者側がやらなければいけないというものでもないと考えているので、どうやって市民にも手伝ってもらうかという部分も重要な話だと思う。

CVMアンケートを実施し評価されているが、それだけでなくこれらの取組みの進捗状況など検討する段階で市民に知らしめていく、また市民の声を拾い上げるシステム作りも大事だと感じる。

- 庄内地方の取組みはステージの高い話だと感じている。赤川自然再生事業は平成17年から取り組まれていて、三川町かわまちづくり、鶴岡市赤川かわまちづくりと進められている。これは、官民挙げて密接に長年、取組まれてきたことは素晴らしいことであるし、県内でも少ないのでは無いか。

ハリエンジュ伐採後アオサギがどうなったか？という話があったが、今でもアオサギは居る。集団営巣をする鳥だが、赤川には集団営巣地はない。赤川はこれまでと変わらずに採餌場として利用している。

- 今回の台風19号においては、河川の氾濫や決壊によって国直轄、県管理の河川でもあのような大被害を受けるということからすれば、河川整備があるからこそ、今回の自然再生や水辺の整備の事業に取り組めると考えている。中流部の河道掘削により治水の安全度が非常に高まったことが一つの要因として考えられる。

さらに月山ダムが水域の流量調整の上でも大きな役割を果たしていると感じる。

三川町ではかわまちづくりの整備が地域の関心事となっている。今年はふれあい広場の完成イベントとして、管理用通路を利用したウォークラリーを開催した。

自然再生や水辺整備と防災イベントを一緒にやるのは難しいのではないかと感じる。

- 酒田市は最上川が流下しているが、酒田市民には小さな子供と川の水に触れるという発想が無い。親水という側面ではうらやましく思う。赤川の整備箇所は酒田市民、山形県民もぜひ足を運んで一緒に利用させてもらう、有意義な施設になると思う。河川の管理について、伐木等で対応していただいているが、今年のような災害があって始めてその意義が確認できる。地道な河川の管理がひいては災害が無くなる、あっても軽減できるということだと思う。

- 河川の氾濫などで河川は恐ろしいところだということイメージになっているのではないかと危惧される。こうした時だけに、かわまちづくりが重要であり、国県自治体が情報共有しながら市民に情報提供し理解を求めていくことが重要だと考える。かわまちづくりにより常に人々が訪れにぎわう場が整備されると良いと考える。

- 自然再生に関して、川の中の環境という意見があったが、サケの採捕場がなくなったと聞いた。月光川でも5箇所あったものが3箇所になったと聞いた。運営も中々大変だという話も聞く。川の中のものが地域で食卓にあがる、モクズガニでもヤツメウナギでも良いが、川の恵みを活用するようなことにも取り組んでいかないといけないのではないかと感じる。川の中との関わりということを少し考える時期が来た、考えないと消えていってしまうと感じる。

- ◆台風19号では、直轄河川では阿武隈川と鳴瀬川水系の吉田川で直轄管理の堤防が決壊した。山形県でも結構雨は降っていて、最上川は氾濫危険水位を超過した状況だった。また、洪水調節をしたところとして月山、寒河江、白川ダムが含まれている。最上川上流では高畠町で計画高水位を3時間超過した。  
避難については、逃げ遅れをなくすために、今年から仙台管区气象台と地方整備局とで合同で記者会見を行う取組みを始めた。台風が上陸する前日に行った。また、台風が上陸して雨が降っている最中、夜通しテレビ局が取材に来ており、7回中継を繋いで報道してもらった。  
SNSでの情報発信やプッシュ型緊急速報メールでの情報発信も行っている。  
日頃からリスクに関する情報をよく認識してもらうことが大事だと考えているので、ハザードマップを良くしてもらうことや、子供達に対する防災教育といったソフト対策を含め総合的に取り組んでいく中で被害の軽減をしていきたいと考えている。  
環境整備に関しては、折角ある河川空間であるので、皆さんにより有効に活用していただきたいなど強く考えているところである。スポーツやレクリエーションで川を使いながら、川を身近に感じていただくことによって、いざという時のことについても意識を高めていただければよいと考えている。
- ◆今後の河川行政に向けてのご意見をいただいたと認識している。現状で安心せずに、想定しうる最大に対して、環境整備、河川整備をさらに進めていかなければと感じた。国土強靱化の緊急3か年ということで、昨年からの3か年限定ではあるが、緊急対策の予算がついていの中で、今年も赤川、最上川の河口部などで河道掘削や伐採などの整備を進めていければと考えている。  
河川の協力団体の方の姿がもっと見えるようにというご意見については、同感である。いろんな地域の方のご協力を頂いているということを様々な場面で打出していけるように工夫をしていきたい。  
市民への情報発信に関しては、災害の情報というところと魅力の情報という2点についてご意見を頂いたと感じている。災害時の情報は説明の通りであるが、河川は歴史的に長い取り組みがあるが水辺の賑わいというところをどのように出していくかという部分が大事で、今回の計画の中の具体的な例として取り組んでいければと考えている。
- かわまちづくりについては、地域の方々等の意見やニーズを踏まえ事業を進めることが望ましい。あわせて、整備後は適切な維持管理にも努めて欲しい。
- ◆かわまちづくり推進協議会やワークショップ等を通して、利活用、維持管理について議論し、今後の整備に反映していきたい。
- モニタリング調査については、河川水辺の国勢調査を基本として取りまとめることは良いが、魚類調査については判断が難しいため、必要に応じて専門家に相談することが望ましい。
- ◆河川水辺の国勢調査の実施にあたっては、学識経験者等専門家に相談しながら実施していきたい。

以上